

令和3年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名

伊万里市

(都道府県: 佐賀県)

1. 当該地域の情報 (令和4年1月現在)

地域の課題	伊万里市においては、社会環境等の変化を踏まえ、将来向かうべきまちづくりの指針となる「第6次伊万里市総合計画」を策定したところであり、人口減少社会への対応を重点施策として取組の柱に据え、事業の展開を図っている。その中では、外国人の受け入れと多文化共生社会の構築がきわめて重要な政策である。今後、外国人への日本語教育を如何に充実していくかが、地域の大きな課題であると思われる。
在住外国人数 外国人比率	496人 0.9%(令和4年1月1日現在)
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】インドネシア204人、ベトナム104人、中国60人、韓国37人、フィリピン23人、パキスタン14人、朝鮮11人、ミャンマー10人、スリランカ9人、米国7人。(令和4年1月1日現在) 【在留資格】技能実習270人、永住者54人、特別永住者39人、特定活動28人、技術・人文知識・国際業務24人、特定技能21人、家族滞在18人、日本人の配偶者等18人、宗教7人、定住者3人、技能3人、高度専門職3人。(令和4年1月1日現在) 【滞在年数・在留期間などの状況】 技能実習生が全体の54%を占めており、原則、在留期間は3年である。2年連続のコロナ禍の影響で、入国ができないため、技能実習生の数が半減したが、アフター・コロナになれば再び増えていく見込みである。
在住外国人の 日本語教育の現状	技能実習生:各監理団体によると、来日前、自国で日本語教育(初級)を受け、来日後は主に生活適応等に関する研修を行っている。その他の在留資格者については、以下のアンケートから、その現状を窺えると思われる。 参考:2020年9月1日から10月9日まで、伊万里市在住外国人を対象にアンケートを実施した。 配布150枚、回収103枚、有効サンプル数100枚。 このアンケートのQ5「あなたは現在、日本語を勉強していますか」への回答は、「一人で勉強している」(38人)、 「日本人の知り合いに教えてもらっている」(27人)、「職場・学校の日本語教室で勉強している」・「勉強していない」(15人)、 「日本語教室で勉強している」(6人)、「家族から教えてもらっている」(2人)となっている。

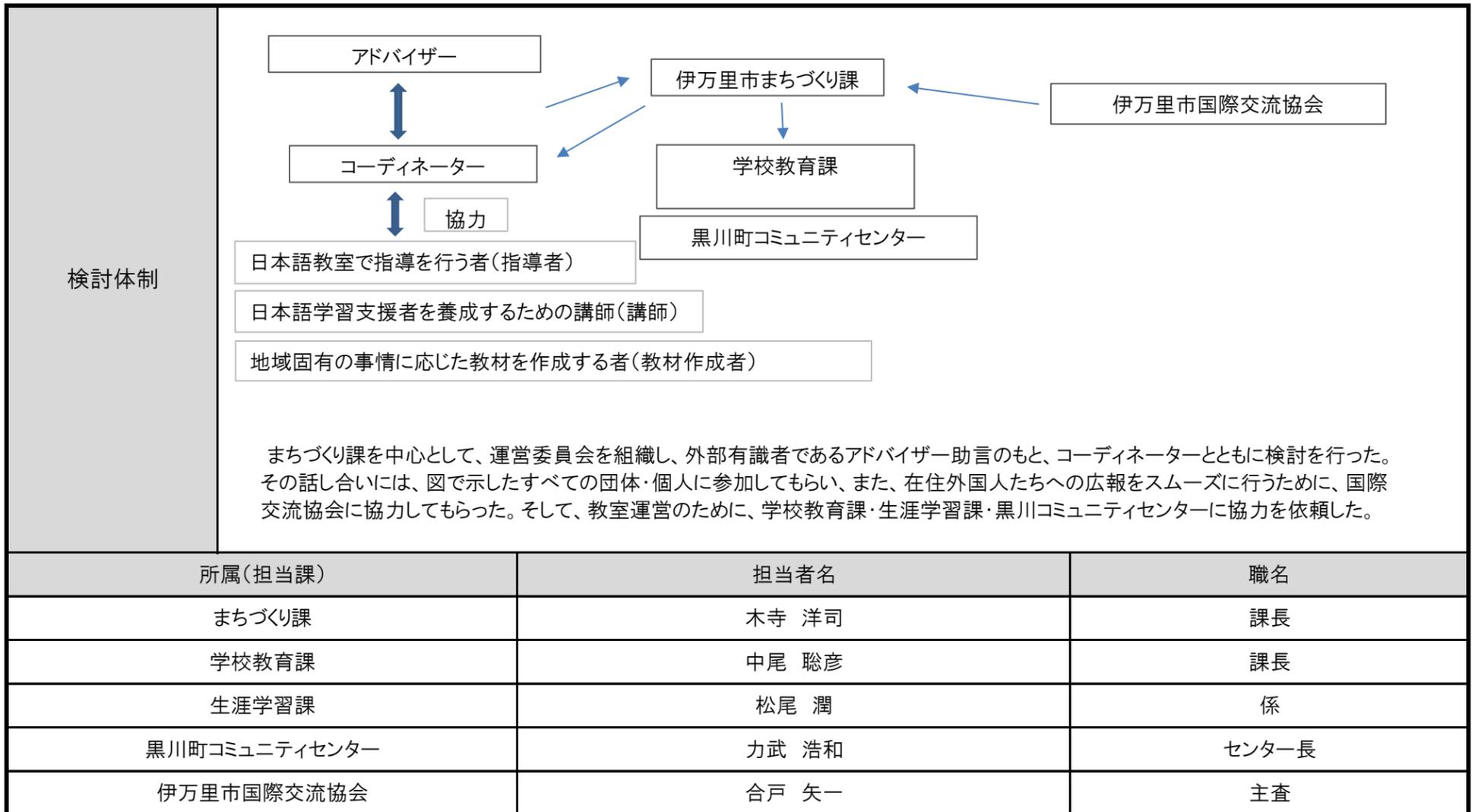
2. 事業の内容

本プログラム取組年数	2年目
事業の目的	市在住外国人が伊万里市で生活・就職するには、母国での視点で生活することだけではなく、日本の文化や習慣などを知り、地域の中で円滑に日本社会に適応するための方法を身に付ける必要がある。実生活の事例を通して学び、また、多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらえる日本語教室を作りたいと考えている。外国人住民が伊万里市の一員として、自立した生活を送ることができるようになることを目的としている。
事業の概要	現在、市内在住の外国人は496人、市人口の0.9%を占めている(令和4年1月1日現在)。これまで、生涯学習センターで日本語教室が開催されてきたが、多くの外国人が居住する黒川町から約10キロも離れていることから、移動手段が自転車しかない技能実習生にとっては、通うのが困難な距離となっており、参加者が年々減っている。より多くの在住外国人が伊万里市民として、円滑な生活を送ることができるよう、「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用した「日本語教室Awesome IMARI」を、黒川町を中心に開催するよう、計画した。 3年間を通じて、伊万里市在住の「生活者としての外国人」に対して、日本語教育プログラムを実施するものである。初年度は主に情報収集とニーズ調査を行ったうえで、教室を3回開催した。2年目はアンケート調査の結果に基づき、「交通安全」、「市役所」、「ワクチン接種」などをテーマとして、教室を5回開催した。3年目からは、日本語教室「Awesome IMARI」を月に1回開催し、教室運営の安定化を目指す。
事業の対象期間	令和3年4月～令和4年3月
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)	①アドバイザー会議10回、②コーディネーター会議18回、③多文化共生フェスタにおける広報活動(10月17日～23日)、④企業訪問活動(3回):7月6日、9月22日、12月13日、⑤日本語指導者養成講座(8回):9月13・17日・10月19・20日・11月1・5日・12月6・10日、⑥多文化共生関連講座(3回):10月20・29日・11月8日、日本語教室5回:7月11日・9月5日・10月3・31日、令和4年1月23日、⑦日本人との交流会:6月26日・7月18日を実施した。

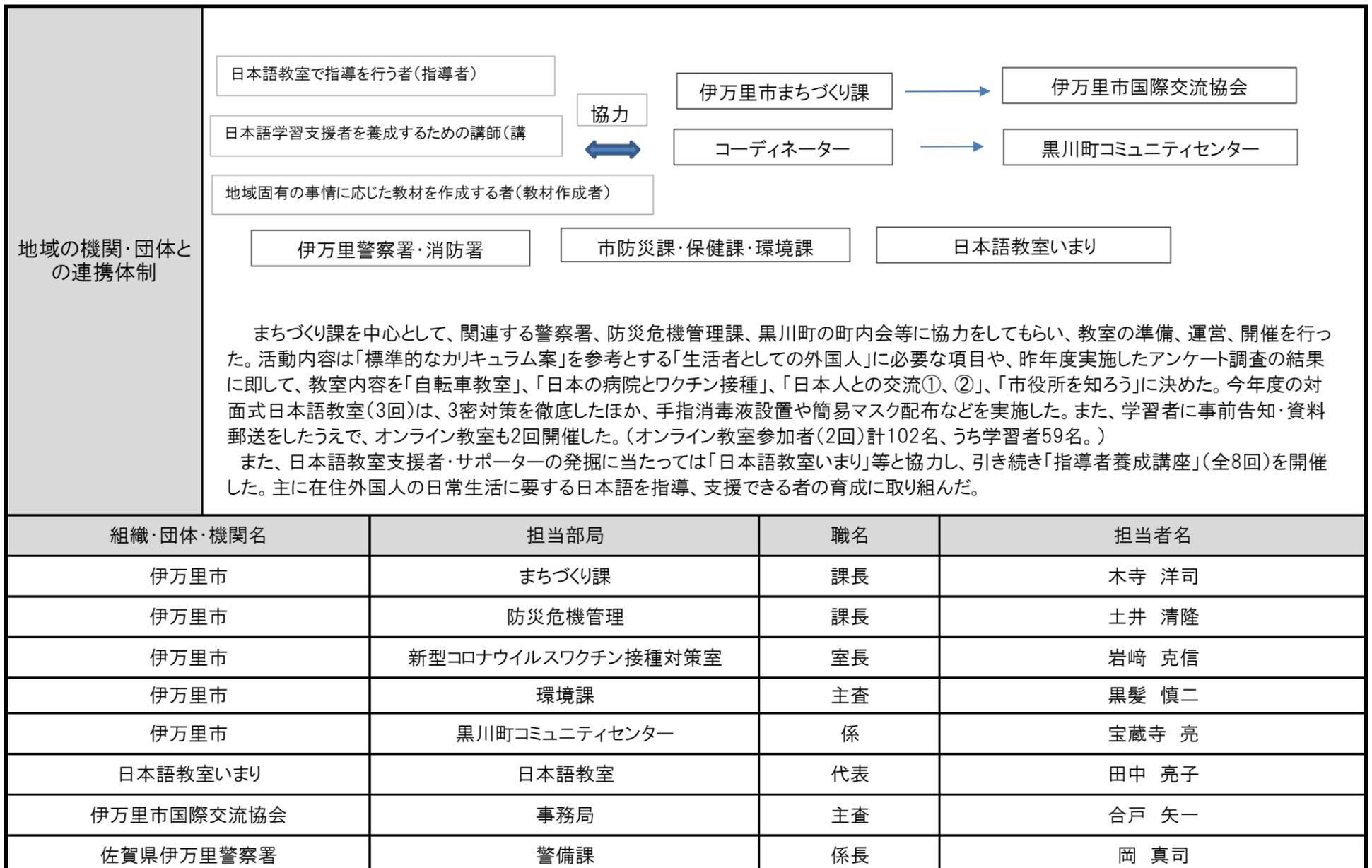
	氏名	所属	職名	担当する役割
担当コーディネーター	章 潔	伊万里市まちづくり課	多文化共生マネージャー	事業の総括
	中村 章	日本語教室いまり	日本語サポーター	日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	田中 亮子	日本語教室いまり	日本語サポーター	地域住民への意識啓発、関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	中島 恵理子	日本語教室いまり	日本語サポーター	日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成
	小島 利津	伊万里市日中友好協会	事務局長	学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備など
	吉村 恭太	山代第一運輸	—	地域住民への意識啓発、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案
	鶴田 クリスティーナ	日本語教室いまり	日本語サポーター	学習ニーズの把握、学習環境の整備
	喜々津 珠美	日本語教室いまり	日本語サポーター	学習ニーズの把握、学習環境の整備
	腰 優子	日本語教室いまり	日本語サポーター	学習ニーズの把握、学習環境の整備
	中村 多美子	日本語教室いまり	日本語サポーター	学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備など
	松島 サチ子	伊万里こだま会	—	地域住民への意識啓発、日本語教室のPR
	橋口 京子	伊万里市文化連盟	理事	地域住民への意識啓発、日本語教室のPR
	福井 英行	伊万里陶芸教室	—	学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備、日本語教室のカリキュラム・学習教材の作成など
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	西原 鈴子	日本語教育研究所	理事長	継続・新規(2年目)
	仙田 武司	しまね国際センター	多文化共生推進課長	継続・新規(2年目)
	高柳 香代	多文化共生ネット・九州	主宰	継続・新規(2年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1) 地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2) 日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1)年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
令和3年 4月	コーディネーターの確保、日本語教室計画づくり	関係機関との連絡・調整、日本語教室の企画・立案、事前学習	
令和3年 5月	コーディネーターの確保、日本語教室計画づくり	関係機関との連絡・調整、日本語教室の企画・立案、事前学習	
令和3年 6月	7日:コーディネーター会議① 内容:(1)自己紹介・役割分担説明、(2)R3年度計画書作成に関する打ち合わせ 18日:コーディネーター会議② 内容:(1)R3年度計画書の内容について意見交換、(2)アドバイザー会議の事前打ち合わせ 21日:アドバイザー会議① 25日:アドバイザー会議② 26日:日本人との交流会①、内容:黒川町「外国人実習生との交流事業(収穫および食事会)、参加者15名(うちインドネシア技能実習生6名)	学習ニーズの把握、学習環境の整備、日本語教室の企画・立案	遠隔2回(西原・仙田・高柳) 21日:アドバイザー会議① 内容:(1)新規コーディネーターの紹介、(2)R3年度計画書の内容についての審議 25日:アドバイザー会議② 内容:(1)21日の審議の修正結果の報告、(2)R3年度計画書の確定
令和3年 7月	2日:コーディネーター会議③ 内容:(1)第一回日本語教室の実施に関する打ち合わせ、(2)当日の役割分担の協議 6日:企業訪問活動①:社会医療法人謙仁会、内容:日本語教室参加依頼(事務局) 8日:コーディネーター会議④ 内容:(1)第1回日本語教室の学習内容に関する打ち合わせ、(2)当日の参加者のグループ分けについて 11日:第1回日本語教室、内容:「自転車教室」 15日:コーディネーター会議⑤ 内容:(1)第1回日本語教室の実施に関する反省会、(2)学習者のポートフォリオについての打ち合わせ 18日:日本人との交流会②、内容:波多津町国際交流「日本の食と文化でもてなそう!」、参加者31名(うちベトナム技能実習生11名) 20日:アドバイザー会議③	学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備、関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラムの作成	遠隔1回(西原・高柳) 20日:アドバイザー会議③ 内容:(1)第1回日本語教室の実施報告、(2)第1回日本語教室の反省点と改善点について
令和3年 8月	3日:コーディネーター会議⑥ 内容:(1)アドバイザー10月派遣日程について、(2)第2回日本語教室の参加者募集についての打ち合わせ 27日:コーディネーター会議⑦ 内容:(1)第2回日本語教室のオンライン開催についての打ち合わせ	関係機関との連絡・調整、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備、日本語教室のカリキュラムの作成	
令和3年 9月	3日:コーディネーター会議⑧ 内容:(1)第2回日本語教室の事前確認、(2)グループ分け、(3)本日の流れについての打ち合わせ 5日:第2回日本語教室、内容:「日本の病院とワクチン接種を知ろう」 9日:コーディネーター会議⑨ 内容:(1)第2回日本語教室の各グループの実施状況報告 13日:第1回日本語指導者養成講座、内容:「市在住外国人の現状など」 16日:アドバイザー会議④ 17日:第2回日本語指導者養成講座、内容:「市の多文化共生施策」 21日:コーディネーター会議⑩ 内容:(1)第3回日本語教室の内容、学習者募集に関する打ち合わせ 22日:企業訪問活動②:株式会社名村造船所、内容:日本語教室参加依頼(事務局) 24日:文化庁コーディネーター情報交換会(コーディネーター2名参加)	学習ニーズの把握、地域住民への意識啓発、学習環境の整備、関係機関との連絡・調整、日本語教室のPR、日本語教室の企画・立案、日本語教室の準備・実施、日本語教室のカリキュラムの作成	遠隔1回(仙田・高柳) 16日:アドバイザー会議④ 内容:(1)第2回日本語教室の実施報告、(2)第2回日本語教室の反省点と改善点について

(2) 立ち上げた日本語教室の詳細

教室の名称	日本語教室「Awesome IMARI」							
外国人参加者について	[国籍]ベトナム21名、中国19名、インドネシア10名、スリランカ2名、韓国2名、バングラデシュ2名、タイ1名、アメリカ1名、ジンバブエ1名、ミャンマー1名。 [属性]技能実習生や日本人の配偶者等が主な対象。				参加者数 (内 外国人数)	受講者60名 支援者38名 (日本語指導者13名、 サポーター25名)		
開催時間数	総時間 7.5 時間			内訳 1.5 時間 × 5 回				
目標	<p>①伊万里市民および外国人住民に日本語教室「Awesome IMARI」を知ってもらう。</p> <p>②昨年実施したアンケート調査の結果に基づき、日本語教室のテーマを設定し、生活者としての外国人たちの「分からないこと、知りたいこと、教えてもらいたいこと」を知ってもらう。</p> <p>③多様な年代の日本人とふれあうことによって、学習と交流の楽しさと魅力を感じてもらう。</p> <p>④日本語教室「Awesome IMARI」を日本語教育人材の育成や外国人と触れ合う拠点とみなし、伊万里市の日本語教育の推進を図る。</p>							
実施内容								
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	内容	授業概要	支援者数	
1	2021年7月11日(日) 14:00~15:30	1.5	生涯学習センター	22	自転車教室	14:00~14:02 挨拶(田中亮子) 14:02~14:05 本日の流れの説明(中村章) 14:05~14:15 交通安全講話(佐賀県警察) 14:15~14:40 自転車シミュレーター体験(佐賀県警察) 14:40~15:25 会話練習(日本の交通ルールについて) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中島恵理子) グループ④(腰優子) 15:25~15:30 まとめ・アンケート(章潔)	日本語指導者13名 サポーター14名	
2	2021年9月5日(日) 14:00~15:30	1.5	オンライン (ZOOMミーティング)	23	日本の病院とワクチン接種を知ろう	14:00~14:02 挨拶(松島サチ子) 14:02~14:05 本日の流れの説明(章潔) 14:05~14:40 会話練習①(ワクチン接種について) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中島恵理子) グループ④(福井英行) グループ⑤(腰優子) グループ⑥(小島利津) 14:40~15:25 会話練習②(日本の病院について) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中島恵理子) グループ④(福井英行) グループ⑤(腰優子) グループ⑥(小島利津) 15:25~15:30 まとめ・アンケート(章潔)	日本語指導者12名 サポーター8名	

3	2021年10月3日(日) 14:00~15:30	1.5	黒川コミュニティセンター	10	日本人との交流①	14:00~14:02 挨拶(松島サチ子) 14:02~14:05 本日の流れの説明(章潔) 14:05~14:40 会話練習(2021さが国際フェスタ 展示写真について) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中村多美子) グループ④(福井英行) グループ⑤(腰優子) 14:40~15:25 書く練習(母国語と日本語で写真 「1グループ3枚」を説明) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(中村多美子) グループ④(福井英行) グループ⑤(腰優子) 15:25~15:30 まとめ・アンケート(章潔)	日本語指導者12名 サポーター6名
4	2021年10月31日(日) 14:00~15:30	1.5	小城公園	10	日本人との交流②	14:00~14:30 ベトナム国籍の学習者たちが2021さが 国際フェスタの来場者に日本語教室「Awesome IMARI」の取り組み(写真18枚)を紹介 14:30~15:00 中国国籍の学習者たちが2021さが 国際フェスタの来場者に日本語教室「Awesome IMARI」の取り組み(写真18枚)を紹介 15:00~15:30 韓国国籍の学習者たちが2021さが 国際フェスタの来場者に日本語教室「Awesome IMARI」の取り組み(写真18枚)を紹介	日本語指導者10名 サポーター5名
5	2022年1月23日(日) 14:00~15:30	1.5	オンライン (ZOOMミー ティング)	36	市役所を知ろう	14:00~14:02 挨拶(中村多美子) 14:02~14:05 本日の流れの説明(章潔) 14:05~14:10 住民票の取り方(福井英行) 14:10~14:40 会話練習①(住民票について) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(鶴田クリスティーナ) グループ④(福井英行) グループ⑤(吉村恭太) 14:40~14:50 モーラ(拍)の説明・発音練習 (章潔・中村 章・中村多美子) 14:50~15:25 会話練習②(市役所・市報につい て) グループ①(中村章) グループ②(田中亮子) グループ③(鶴田クリスティーナ) グループ④(福井英行) グループ⑤(吉村恭太) 15:25~15:30 まとめ・アンケート(章潔)	日本語指導者11名 サポーター12名

【主な活動】



日本語教室「Awesome IMARI」第1回
(2021年7月11日)



日本語教室「Awesome IMARI」第3回
(2021年10月3日)



日本語教室「Awesome IMARI」第5回
(2022年1月23日)

教室の立ち上げに係る問題と対応策	<p>問題:</p> <p>①学習者数が予定よりやや少なかったこと、毎回の参加者の入れ替わりも多く、教室活動の参加が定着されていない。</p> <p>②技能実習生を受け入れている企業との連携。市内受入企業を訪問し、協力要請をしたが、当日教室に来るその企業の参加者がゼロだった。</p> <p>③新型コロナウイルス感染症対策のため、対面式の日本語教室活動ができなくなり、オンライン教室の実施に困惑を感じる指導者も少なくない。</p> <p>対応策</p> <p>①ニーズ調査の結果だけではなく、学習者と一緒に教室活動内容を考えてもらい、生活の問題を解決できる教室内容を確立する。また、地域の日本人とふれあい、各種イベントや活動に参加してもらい、日本人と学習者が接触する場面を増やすことで、参加の定着化を図る。</p> <p>②受入企業を定期的に訪問し、日本語教室の様子、成果、意義を丁寧に伝え、企業側の理解を得るよう努力する。行政、企業、民間団体との連携を深め、日本語教室を地域活性化の拠点として共同する。</p> <p>③Zoom使用に関する研修の実施や、日本語学習サイト「つながるひろがる」の活用をすることによって、リモート教授法の向上を図る。また、検温、マスクの着用、消毒液の使用など、対面形式の教室の感染症防止対策を徹底する。</p>
------------------	--

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
さが国際フェスタ月間	令和3年10月17日(日)～23日(木) 9:00～17:00	日本語教室立ち上げのための取組を地域住民に周知するため、近隣市である小城市(小城公園)で開催された多文化共生フェスタ(10月31日)にブース出展した。なお、来場者は2,000名程度おり、当市の取組を説明し、理解促進を図った。 そして、このフェスタ月間中(10月17日～23日)、佐賀商工ビル1階(通路)で、「文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教室空白地域解消推進事業-地域日本語教育スタートアッププログラム」のパネル展示をした。来場者たちに、日本語教室「Awesome IMARI」の取り組みをPRした。
日本語指導者養成講座	令和3年9月～12月 (全8回)	日本語教室「Awesome IMARI」でサポーターとして活躍できる人材を育成し、継続的な日本語指導体制を構築するために、全8回の養成講座を開催した。 【内容】(全8回の時間:18:30～20:00、90分/回) 第1回 9月13日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「市在住外国人の現状など」 講師1名:章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、参加者数18人 第2回 9月17日(金)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「市の多文化共生施策」 講師1名:章潔(伊万里市多文化共生マネージャー)、参加者数19人 第3回 10月19日(火)、場所:市民活動支援センター、テーマ「伊万里弁とやさしい日本語」 講師1名:松尾清(伊万里市郷土研究会会長)、参加者数23人 第4回 10月20日(水)、場所:市民活動支援センター、テーマ「日本語教室いまりの取り組み」 講師3名:田中亮子、中村章、中島恵理子(日本語教室いまり)、参加者数24人 第5回 11月1日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「日本語学習支援Ⅰ」 講師1名:小嶋栄子(長崎短期大学教授)、参加者数16人 第6回 11月5日(金)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「日本語学習支援Ⅱ」 講師1名:小嶋栄子(長崎短期大学教授)、参加者数16人 第7回 12月6日(月)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「日本語の構造Ⅰ」 講師1名:小嶋栄子(長崎短期大学教授)、参加者数14人 第8回 12月10日(金)、オンライン(ZOOM)開催、テーマ「日本語の構造Ⅱ」 講師1名:小嶋栄子(長崎短期大学教授)、参加者数14人
多文化共生関連講座	令和2年9月～令和3年2月 (全3回)	地域日本語教室を立ち上げるために、伊万里市民に対する多文化共生の意識啓発が必要である。そのため、市民を対象とする「多文化共生関連」講座を開催した。 【内容】(全3回) 第1回:10月20日(水)13:00～15:00、場所:伊万里市民図書館 テーマ:伊万里市シンポジウム「コロナ禍における地域日本語教室」 講師3名:西原鈴子、仙田武司、高柳香代、参加者数(団体):68。 第2回:10月29日(金)10:00～11:00、場所:立花コミュニティセンター テーマ:「伊万里市の多文化共生とやさしい日本語について」 講師1名:市多文化共生マネージャー 章潔、 受講者数:15名(市民団体名:立花レディースクラブ)。 第3回:11月8日(月)17:00～18:00 テーマ:「①やさしい日本語について、②スリランカの方と触れ合う」、場所:堀田病院 講師2名:スラン マヌラ フィジェーラトナ(スリランカ)、章潔 受講者数:13名(市民団体名:堀田病院)。

【主な活動】



多文化共生関連講座第1回
(2021年10月20日)



日本語指導者養成講座第4回
(2021年10月20日)



多文化共生関連講座第3回
(2021年11月8日)

5. 今年度事業全体について

進捗状況	概ね計画通り実施した。計画と実際の差が以下の1点のみ。 試行錯誤をしたが、教材作成できた数が計画どおりになっていない。
事業推進にあたり問題点と対応策	<p>問題点： ①人材(コーディネーター、指導者、講師、教材作成者)のスキルアップ。 ②日本語教室「Awesomen IMARI」の周知。</p> <p>対応策： ①事業継続のため、引き続き人材(コーディネーター、指導者、講師、教材作成者)の発掘・養成・スキルアップを図る。そのため、定期的に指導者養成講座を開催し、また、県国際交流協会などと連携し、人材の紹介・斡旋・スカウトをする。 ②日本語教室「Awesomen IMARI」の存在を認識してもらうために、市のHP、ケーブルテレビ、市報、SNSなどにおける周知や周知用のチラシやカードの関係機関、市民への配布をする。また、市に転入した際に配布する転入バッグの中に教室のチラシを入れ、転入外国人住民に周知する。また、黒川コミュニティセンターや生涯学習センターだけではなく、外国人受入企業に出向いて、教室活動を開催する。</p>
成果	<p>①1年目実施したニーズ調査の結果に基づき、「交通安全」、「ワクチン接種」、「市役所の手続き」など、伊万里市の特徴や学習者のニーズを把握したうえで、日本語教育プログラムを作成した。 ②コーディネーターの人数を5名から13名に増やして、人材の確保に努めた。また、今後の日本語教室の質の向上を目指すとともに、指導者養成講座の開催をはじめ、オンライン日本語教室の開催や、指導シート作成などの実践を通して、コーディネーター個人の教育能力やスキルの強化を促進した。 ③企業訪問などを行い、受け入れの企業側と話し合い、意思疎通を図った。 ④「広報伊万里」に「みんなで考えよう～多文化共生～」(偶数月掲載)を新設し、日本語教室の意義を市民に周知した。 ⑤コーディネーター13名からなるチーム日本語教室「Awesomen IMARI」の体制づくりが充実され、事業ビジョンの共有、教室の目標設定、メンバーの役割分担、コミュニケーションの円滑化、情報共有などができ、チームワークが高まった。</p>
地域の関係者との連携による効果	<p>①行政や外国人の受入企業、市民団体などと連携し、「Awesome IMARI」の運営安定化を図った。 ②「Awesome IMARI」の活動を通して、伊万里市在住外国人の希望、ニーズに応じた日本語教育を受ける機会を確保した。 ③日本語教育の人材育成を継続的に行い、「Awesome IMARI」の質を向上した。 ④「Awesome IMARI」を伊万里市の多文化共生の拠点として、地域の活力向上に寄与した。</p>
コーディネーターの主な活動	<p>①学習ニーズの把握 ②地域住民への意識啓発 ③学習環境の整備 ④関係機関との連絡・調整 ⑤日本語教室のPR ⑥日本語教室の企画・立案 ⑦日本語教室の準備・実施 ⑧日本語教室のカリキュラム、学習教材の作成</p>
アドバイザーの主な助言	<p>①コロナ禍における日本語教室の運営方法。 ②オンライン日本語教室の効果、評価方法、フィードバック。 ③他地域の先進的な取り組みの紹介。 ④技能実習生の受け入れ側との調整、連携方法。 ⑤日本語指導者養成講座の内容、指導のポイント。 ⑥事務局の業務を一個人に集中させず、役割分担の適正化を図るべく。</p>

<p>今後の課題</p>	<p>①市に日本語教育機関・学校がないため、県内の大学や地域日本語教室と協力し、情報交換や地域連携教室活動を実施する必要がある。また、市役所の関連部署(まちづくり課以外)や企業との情報共有も必要である。</p> <p>②安定な運営を実現するために、リモート研修などを活用し、指導者等の人材育成を継続化する必要がある。</p> <p>③行政をはじめ、各地域のコミュニティセンター、小中高、商工会議所などと連携し、「Awesome IMARI」のプログラムの質向上を図り、また、SNSや市報などを活用して情報発信を積極的に行い、外国人の教室参加を促進する必要がある。</p> <p>④スタートアップ事業終了後の運営資金の獲得。</p>
<p>今後の予定</p>	<p>①地域の関係機関との連携 外国人を受け入れている企業と連携し、日本語教室参加者の募集をする。教室の実施内容を、1年目実施したニーズ調査に基づき、関連する警察署(交通安全)、防災危機管理課(災害時対応)、環境課(ゴミの分別)等に依頼し、協力を求める。また、指導者の発掘に当たっては市国際交流協会等と協力し、日本語教育サポーターの育成に取り組む。このような、地域の連携ネットワークを形成し、日本語教室を運営していく。 (日本語教室8回。参加学習者数15人/回×8=120人)</p> <p>②市民に対する意識啓発 広報やイベントの開催を通して、外国人が多く住んでいる地域だけではなく、より多くの伊万里市民に多文化共生と日本語教室の必要性をアピールする。(多文化共生関連講座3回。参加者25人/×3=75人)</p> <p>③日本語教室の安定的運営に向けた検討 予算の獲得及び人材の確保と育成。(日本語指導者養成講座8回。参加者数10人/回×8=80人)</p>

本件担当 : 伊万里市役所まちづくり課多文化共生係